

2. 領域内における研究組織と研究班の連携状況

研究組織は以下の9つの計画班と1つの総括班で構成された。

< 研究組織一覧 >

1. 「総括」班
(研究代表者：安成 哲三)
2. 「放射・熱収支モニタリング」班
(研究代表者：木村 富士男)
3. 「熱帯エネルギー・水循環過程」班
(研究代表者：虫明 功臣)
4. 「亜熱帯・温帯エネルギー・水循環過程」班
(研究代表者：坪木 和久)
5. 「チベット高原陸面エネルギー・水循環過程」班
(研究代表者：小池 俊雄)
6. 「チベット高原大気エネルギー・水循環過程」班
(研究代表者：石川 裕彦)
7. 「シベリア生物圏エネルギー・水循環過程」班
(研究代表者：太田 岳史)
8. 「シベリア雪氷圏エネルギー・水循環過程」班
(研究代表者：大畑 哲夫)
9. 「気候水循環モデリング」班 (研究代表者：住 明正)
10. 「エネルギー・水循環情報データアーカイブ」班
(研究代表者：沖 大幹)

研究項目は、大きく、モニタリング(1計画班：No.2)、プロセス研究(6計画班：No.3-No.8)、モデリング(1計画班：No.9)、およびデータ情報アーカイブ(1計画班：No.10)の4つに分かれている。

- ・ 領域全体の研究推進および研究項目間の連携・調整は総括班(No.1)で行われた。また、アジアモンスーン全体に関わるエネルギー・水循環過程については、総括班グループが主導して、進めた。
- ・ モニタリンググループはアジア大陸を代表するさまざまな地表面での放射・熱・水収支の長期観測を行い、異なる気候・植生状態が地表面・大気間の1次元的なエネルギー・水循環のフローの季節変化と経年変動

の実態を明らかにすることを目標としている。これらのデータは、それぞれの関係する地域でのプロセス研究にも同時に貢献することを意図している。

- ・ プロセス研究グループは、アジアモンスーン地域を代表する4地域（熱帯、亜熱帯・温帯、チベット高原、シベリア寒冷圏）での流域スケールでのエネルギー・水循環過程の集中・強化観測を、とくに98年度、99年度（シベリアは2000年度）の夏季モンスーン期間を中心に行い、より広域でのエネルギー・水循環系の実態解明を進める事を目標としている。また、これらのデータに加え、既存気象・水文データや衛星データの解析なども含めて、その流域・地域の広域的なエネルギー・水循環の変動の実態と機構解明を総合的に行った。各流域・地域研究にはモデリンググループからもそれぞれ参加しており、プロセス研究で得られた、各流域・地域特有の気象・水文過程や現象のシミュレーションも同時に行われている。
- ・ モデリンググループは、モニタリング、プロセス研究で得られつつあるデータを、気候・水文モデルでの陸面水循環・雲降水過程などのパラメタリゼーションやモデル検証に用いて、流域水文モデル、領域気候モデル、大気大循環モデルなどの改良を行うとともに、前述のように、アジア・ユーラシア大陸特有の大気・水循環過程のシミュレーションを行った。
- ・ データ情報アーカイブグループは、モニタリングとプロセス研究で得られたすべてのデータを、プロットスケール、地域スケールから大陸スケールでのエネルギー・水循環過程のさまざまな解析的研究やモデリングに利用しやすいようなかたちのデータアーカイブの構築を、モニタリングで得られたフラックスデータや、プロセス研究を通してアーカイブされた衛星データも含め、目的としている。また、この研究で得られたすべてのデータ・情報を、世界の関係研究者・技術者にも容易にアクセス可能な情報システムの構築も進めた。

以上のように、4つのグループ（9計画班）は、密接に連携を取りながら、全体の研究が進められている。また、これらの研究グループ間の連携や共通の科学的問題の検討や、プロジェクト全体の実行推進を進めるために、国内実行委員会が2ヶ月に1回、各国の関係機関代表も含めたGAME国際推進委員会が年に1回、開催した。